

◆「主として知識に関する問題」

特に課題が見られた内容

「インタビューのメモを取る」

「インタビューのメモの工夫について、話を聞き取る時、要点を押さえながらメモを取ることに課題がある。」

(話すこと・聞くこと) 設問6

	正答率	無解答率
本 県	56.5%	0.8%
全 国	57.5%	0.6%

「文を構成する」

「人物像を把握するために叙述内容を分析的に読み、一文を二文の構成にして書き換えること」に課題がある。

(読むこと・言語事項) 設問5

	正答率	無解答率
本 県	57.6%	4.6%
全 国	57.8%	4.4%

指 導 上 の 工 夫

●具体的な工夫を子どもから引き出す学習活動の工夫

メモの活用を取り入れた学習活動において、どのような「技能」や「工夫」を使ったのかを認識させることが大切である。

例えば、「日時や場所を書く」「箇条書きにする」「キーワードだけを書く」など、具体的な「技能」や「工夫」を子どもたちから引き出すことが重要である。

国語科はもとより、他教科や特別活動においても年間を通してこうした学習指導を展開することが大切である。

●習得した言語事項を読解において活用する学習活動の工夫

「日本語においては、文章の主語が省略されることが多い」などの知識を実際の読解に活用する学習指導を行うとともに、文学作品を読む学習活動において、例えば「省略されている主語を補って書き直す」といった活動を行うことが重要である。

また、他領域においても二つの内容を一文にまとめたり、一文を内容ごとに分けて書いたりするなど、習得した言語事項を活用する言語活動を設定した授業を工夫することが大切である。

◆「主として活用に関する問題」

特に課題が見られた内容

「話し合いを計画的に進める」

「司会者として発言された提案や意見を整理し、要約しながら話し合いを進めること」に課題がある。

(話すこと・聞くこと) 設問1ー

	正答率	無解答率
本 県	63.9%	4.9%
全 国	62.9%	4.9%

「新聞記事を書く」

「理由となる事実をとらえ、要約すること」に課題がある。

(書くこと・読むこと) 設問2二

	正答率	無解答率
本 県	45.8%	3.9%
全 国	45.4%	4.0%

「新聞記事を書く」

「文章の内容を単に取り出すのではなく、目的や条件に応じて書き換えること」に課題がある。

(書くこと・読むこと) 設問2三(1)

	正答率	無解答率
本 県	50.1%	11.9%
全 国	49.0%	11.5%

「比べて読む」

「読書感想文に必要な要素を押さえ、二人に共通する書き方の良いところを的確に把握し、評価すること」に課題がある。

(読むこと) 設問3

	正答率	無解答率
本 県	54.6%	16.9%
全 国	54.9%	17.5%

指 導 上 の 工 夫

●司会の能力を高める学習活動の工夫

司会者として、話し合いの目的を念頭におきながら、発言者の意図や理由を聞き分け、整理・要約する能力を高めることが必要である。質問紙において、「国語の授業で司会をすることがありますか」に対して「あまりない・まったくない」の回答が74.8%と司会者の経験が少ないことがうかがえる。これらから、司会を含む話し合い活動の経験を意図的・計画的に設定することが大切である。また、発達段階に応じて、少人数から学級全体など様々な形態での活動を設定し、様々な場面において目的にあった司会を行う経験を積ませる学習活動を工夫することが重要である。

●キーワードに着目し、理由や根拠を踏まえて記述する学習活動の工夫

筆者の主張が、どのような理由や根拠によって論証されているかをとらえさせる指導をしっかりと行うことが重要である。

また、キーワードが何であるかを明確に読み取らせる指導が大切である。さらに、前後の文脈を押さえるだけではなく、段落と段落の相互関係などを踏まえて、キーワードを使って要約する指導も必要である。

●字数や表現様式などの条件に応じて書く力を高める学習活動工夫

目的や意図に応じて情報を取り出し、条件に応じて書くことの指導が必要である。そのためには、目的や意図に応じて、事実と感想・意見を明確に区別しながら書くという場を何度も設定することが重要である。

比較的緩やかな条件のもとで書かせる指導だけでなく、字数や表現様式などについて、様々な条件を設定して書く力を高める学習活動を工夫することが大切である。

●複数の文章や資料を比較・吟味する学習活動の工夫

複数の文章や資料を取り上げ、「書き方」「内容」などの観点を設定して、文章を吟味する言語活動を充実することが大切である。また、様々な学習場面において、「お互いの良いところを見つける」学習活動を積み重ねていく必要がある。

質問紙において、「国語の授業で、2つ以上の資料や文章を比べて読んだり調べたりしていますか」に対して、「どちらかといえばしていない・していない」の回答が59.0%あった。この結果を受けて、「読むこと」の領域だけでなく、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域においても比較させる学習活動の工夫を凝らすことが重要である。